



校長だより

日中丸



第10号
R1. 7. 2

日間賀中学校長
鈴木 康弘

※イラストは、本校生徒 宮地志奈さん が作成

浜清掃 6.28(金)

西浜、東浜で小中合同浜清掃を行いました。それぞれの浜に集まり、観光協会の方や児童会代表の話を聞いた後、1時間弱の清掃活動に取り組みました。協力して取り組む姿が印象的でした。観光協会をはじめ、島民の方も一緒に取り組みました。サミットでの「島民みんなで島をきれいにしたい」という想いを受けて実現できたことです。活動後には、生徒会代表（環境美化委員）が活動を振り返り、きれいな浜を見て満足そうでした。これからも、日間賀島をきれいにしていこうという想いをもち続けていきたいですね。

ご協力いただきました区会、観光協会、婦人会、PTAの皆様、ありがとうございました。



「日間賀サミット」を終えて

「日間賀サミット」を終えて2週間が経った6月25日（火）に、日間賀小学校・日間賀中学校の子どもたちが、サミットに参加してくださった方へのお礼と、サミットのときに話題となった浜清掃への参加の呼びかけに出かけました。「日間賀サミット、ありがとうございました。そのときに話題になった浜清掃が金曜日に行われます。ぜひ、参加してください。」と伝えました。日間賀島がさらに住みよい島になるため、小中学生ががんばる姿は素敵でした。



朝会より 6.24(月)

生徒発表（6月のテーマ：島の将来について）

宮地姫花さん（1年）

私は、将来この島がきれいで観光客でいっぱいの島になってほしいです。今の日間賀島は、道などにゴミがいっぱい落ちています。島っ子クリーン活動などでゴミを拾っていると、特にタバコやカンが落ちているのが多いです。このようなポイ捨てをなくすためには、地域みんなの協力が大切だと思います。そのためには、小中学生が呼びかけをすれば大人の方はきっと分かってくれると思います。また、島の大人の人たちにやっていただくのではなく、これから自分たちで小さなゴミや大きなゴミでも拾っていきとうれしいです。また、タバコなどが落ちていたら、友達が拾わなくても自分から積極的に拾っていきける人間にどんどん成長していきたいです。

大西瑠生さん（2年）

島の将来は、今よりずっと漁師が増えて、魚介類がたくさんとれるような島になってほしいです。なぜなら、今はよそへ行って暮らす人や漁師にならない人が多くなってきているからです。漁師は危険だと思うし、天候によって漁へいく日が限られてくると思うけれど、僕は、漁師が日間賀島に増えれば、もっとよりよいところになると思います。

魚介類については、日間賀島はタコの島と呼ばれるくらいタコが有名だと思います。けれど、今はタコがあまりとれないとよく聞きます。観光客の人たちはタコを目当てで日間賀島へ来る人がほとんどだと思います。だから、これからはタコは当たり前のように食べないことや、漁師さんががんばってとってくれた魚介類だと思って食べていきたいです。

権田直也先生の話

こんな話をしてくれました。

島に来て1年が経ちました。みんなと一緒にゴミ拾いをしたり、日間賀サミットでいろいろな立場の人と島のこれからについて話をしたり、修学旅行でこれまでの島についてや、PR活動などをしたりする中で、島のことについてたくさん考えることが増えました。

私は生まれも育ちも常滑市の西之口という町です。私は今住んでいるところがとても好きです。でも、昔からそうだったわけではありません。子どもの頃は、遊ぶ場所が少ないし、店もないし、人もあまり多くなく、さみしい感じがして、他のまちはいいなと思っていました。転機が訪れたのは、大学生になってからです。それまでは、あまり地元のために何かをなんて思っていませんでしたが、大学生になり、地元のお祭りを通して地域と関わるようになりました。お祭りは小さい頃からやっていましたが、大人の仲間入りをして携わる人になってからは、地元が抱えている課題を感じるようになったと同時に、自分の町の良さに気づくようになりました。景色がいいな、なんて小さい頃は思っていませんでしたし、人は相変わらず少ないなと感じることはあっても、小さい頃から私を知っている人は、大人になった私を昔と変わらないように接してくれることに暖かさを感じるようになりました。今ではとても大好きな町となりました。

みんなは今、当たり前すぎて気づかないかもしれませんが、もう少し大きくなると、この島の良さに気づくときが来ると思います。私の今の願いは、私が島を離れたあと、また島を訪れたとき、今ここにいるみんなが島を支える人になってくれることです。島に残る人もいるだろうし、島を離れる人もいますが、一人ひとりがこの島を誇りに思い、それぞれの立場で、活躍してくれる姿が見られたらうれしいなと思いました。



校長の話

こんな話をしました。

2年生の林間学校が終わりました。飯ごう炊さんや後片付けなど、お互いに声をかけ合いながら協力している姿が印象的でした。出発式のときに、スローガン「All Happy!」について、こんな話をしました。『Happy』というのは、『幸せな、楽しい、満足な』という意味です。しかも、自分の希望や願い、目標が達成できて『幸せな、楽しい、満足な』という意味だ」という話です。先ほど話した協力の話は、目標を達成した姿であったと思います。そして、2年生全員がそのことに満足できたのではないのでしょうか。正に、「All Happy!」を実現できた姿だと思います。

希望や願い、目標が達成できると『幸せな、楽しい、満足な』気持ちになるのは当たり前だと思います。この当たり前なことをたくさん積み重ねていくことで、人はどんどん成長できます。2年生だけでなく、ここにいるすべての人が「Happy」になれるよう、がんばりましょう。